

# 平成28年度 燕市・西蒲原郡学校保健部 活動報告

部長 上之山 達朗

## 1 研究主題 「生きる力を育む健康教育活動」

## 2 研究の概要

(1) 第1回 指導案検討会 期日：8月4日(木) 会場：吉田産業会館

① 単元名 毎日の生活と健康

② 協議及び指導の内容

ア 指導計画：保健学習として扱うか保健指導として扱うかについては、『睡眠』(眼育)に焦点を絞り、保健指導として扱った方が授業者の思いが具現化できると考える。また、前時との関わりや違いを明確にした指導と位置づければ、どちらでも可能である。

イ 関わり合い：インタビューの内容について意見交換したり、友だちから推理してもらったりする日は、習い事等のない日にした方がよい。

(2) 第2回 授業研究会 期日：11月29日(火) 会場：燕南小学校

題材名 「ぼくらは健康探偵団！

～寝る時刻に隠された真実を解き明かせ～

授業者 中条洋子 養護教諭 堀 靖子 様

指導者 県立教育センター指導主事 森 和香子 様

① 授業の概要

まず、ペアで互いの生活リズムを予測しながらインタビューを行った。次に、保健学習などで習得した知識を活用してよりよい生活リズムの獲得に向けてアドバイスをを行った。その後、友達のアドバイスを基に自分の生活リズムを見直した。

② 協議会

ア 導入の「博士からの挑戦状」は、子どもの興味を引きつけ推理しようとする活動意欲を高めた。

イ 意欲的に楽しく学ぶためにペア学習は有効であった。

ウ ワークシートが複数枚あったため、書いたり、話し合ったりする際に、混乱するグループがあった。番号を付けるなど分かりやすくする工夫があるとよかった。

③ ご指導

ア 子どもの発達段階的には難しい内容であった。しかし、既習の眠育などの学習を生かしながら、アドバイスするなど、しっかり学習活動が行われていた。

イ ワークシートに記入した際の、空白の時間の自己管理能力を高めていくことが、高学年や中学生に向けての大切な視点でもある。

ウ 終末の確保(振り返りの時間)が、自己目標に向けて実践するために重要である。



## 3 成果と課題

互いに聞き合う活動を通して、友達的生活リズムを知ったり、自分の生活リズムにアドバイスをもらったりすることは、自己的生活リズムを省みるだけでなく、関わり合いを通して集団として高め合うことにつながっていた。各学校で自校の課題を明確にし、子どもたちが、将来に渡って健康な生活を送るための指導の実践へとつなげていく必要がある。